畔倉重四郎

帝キネ時代映畫

原作脚色者　高井淺太郎
監督者　山下秀一
撮影者　高橋武則

――主要役割――

畔倉重四郎　明石緑郎
弟　重之助　尾上多見右衛門
幸手の三五郎　東　良之助
隠亡の彌十　大野三郎
越前屋平兵衛　青木芳美
松屋久作　尾上松二郎
相澤庄左衛門　喜多見順
越前屋娘　お涙　久野あかれ
飛脚　早助　清島緑之助
同　九蔵　大久保光三郎
越前屋手代　伊助　明井晃三郎
丁稚　三吉　正木誠二郎

解説――山下秀一氏の「魚屋本多」に次ぐ作品である。

略筋――盲目の弟重之助と共に貧しい涙人生活をしてゐる畔倉重四郎は何時しか幸手の三五郎と組んで暗い道を辿る様になつてゐた、按摩稼ぎをし乍ら只大事と勤めてくれる可憐な弟の情には常に泣かされてゐた。其頃彼は越前屋の娘お涙と戀を語らふ仲となつてゐたが彼が三五郎と共に大金を所持する飛脚を殺したことを知つたお涙は怖しさのために一筋な重四郎の愛をも退けた。戀を失つた彼はその原因をなした三五郎を仆さんとしたが折柄お涙の養子と定る松屋久作の訴へに依りて十手の重圍を受けた。三五郎は逃れて重之助の許へ來り金を取つた上殺害して逃亡した。今更の樣に重四郎の愛をひし〳〵と感じたお涙は重四郎の前に自害して戀に殉じた。重四郎は三五郎を追ふて弟の仇を討ち立腹切つて水中へ……。愛するものの後を追つて永久に罪の體を沈めたのである。